

会 議 録

会議名	平成22年度 第2回 丸亀市行政評価委員会
開催日時	平成22年7月28日(水) 正午～午後16:50
開催場所	丸亀市役所 別館5階第1会議室
出席者	<p>(出席委員)</p> <p style="text-align: center;">石川 千晶 橘 節哉 田中 豊</p> <p style="text-align: center;">日野 明世 溝渕 由美子 山崎 純一</p> <p>(事務局)</p> <p style="text-align: center;">企画財政部長 大林 諭 企画課長 矢野 律</p> <p style="text-align: center;">企画課副課長 小山 隆史 企画課主任 真鍋 裕章</p>
議 題	<p>1. 事業ヒアリング</p> <p>2. その他</p>
傍聴者	1名
発言者	議事の概要及び発言の要旨
企画課長	<p>ただいまから、丸亀市行政評価委員会を開会いたします。本日は大変お忙しいところをご出席いただきまして、ありがとうございます。まず、本日は事業ヒアリングの関係で、大変資料が多くなっておりますので、お手元の一覧表のとおりご確認ください。</p> <p style="text-align: center;">< 資料一覧により各委員が資料確認 ></p> <p>それでは、早速ですが委員長に議長をお願いし、これからの議事進行をお願いいたします。</p>
委員長	<p>皆様、ご苦労様です。本日の議事は次第のとおりですが、なんといいましても事業ヒアリングです。第1回の委員会において委員の皆様にご選定していただいた10事業について、これから所管課とのヒアリングを予定しておりますが、ヒアリングに入ります前に、本日の進行や今後のことについて、事務局に説明を求めます。事務局よろしく申し上げます。</p>
企画課副課長	<p style="text-align: center;">〔本日の予定と今後の作業について、評価作業シートを基に説明〕</p>
委員長	<p>ありがとうございました。それでは、今の説明につきまして、ご質問等ございましたらお願いします。</p> <p>ないようですので、今説明いただいたような段取りで、我々も頑張って進めて行きたいと思っております。</p>

委員長	<p>それでは、ただいまからヒアリングに移りたいと思いますが、ヒアリングは1事業ずつ、時間は概ね25分程度を予定しておりますので、ご協力よろしくお願ひします。</p> <p style="text-align: center;">【事業1．食生活改善推進事業】</p> <p>(ヒアリングに参加した者)</p> <p>健康課 金澤課長、亀井副主幹</p>
健康課長	〔概要説明〕
日野委員	食生活改善推進員(ヘルスマイト)はどのように募集しているのか。また、養成講座を受け、ヘルスマイトになってから何か手当しているか。
健康課担当	募集は広報で広く周知し、希望者なら誰でも養成講座を受けられる。調理学等の専門的な経験や資格は要しない。今年度からは養成講座を終えた人を対象にヘルスマイトビギナー講座を年2回実施している。
橋委員	コミュニティ単位での活動とのことだが、コミュニティとの関わりはどうなっているのか。また、予算的に足りているのか。
健康課長	県や市の研修を受けたヘルスマイトが、コミュニティ単位の活動の中心となり、それらの知識や経験を地域に広げている。
健康課担当	講師を市職員、県職員等からお願いするなど、費用がかからない方法で行っている。
石川委員	教育委員会の「子どもへの食育」との関係はどうか。また、事業対象についての考えはあるのか。開催日時等によって対象者が限られているのではないか。
健康課長	<p>事業対象については、ヘルスマイトの養成という観点から、全市民を対象と考えている。講座は平日の昼間しか開催していない。</p> <p>教育委員会や他課との連携は取れていない。生涯学習やコミュニティで同じような講座があることは承知しているが、それぞれが単独で事業を行っているのが現状である。教育委員会との連携については課員からの要望もあり、今年の秋から、まず幼稚園との連携を持とうと協議を始めたところである。</p>
山崎委員	食育の定義とは何と考えているか。食事や栄養バランスといったことだけでなく、もっと重要な根本の部分を大事にして欲しいと思うが、それは今の予算で可能か。

健康課担当	健康の基本であり、「自分たちの健康は、自分たちで守る」ということが食育の基本的な考え方と思っている。
健康課長	子どもの成長の過程で、食育とは「土」の部分に当たると思う。そのような根っこの部分から生活習慣病の改善まで結び付けて、広く事業を実施していきたいと考えている。今のヘルスマイトは自主的に地域に根ざした活動をしている。費用をかけてというよりは、日常的なソフトの面での充実を図っている。
溝淵委員	ヘルスマイトに何か負担はあるのか。また、各地区の食生活改善推進協議会に支払うお金の算出基準はあるのか。
健康課長	一人700円の年会費を徴収している。これは、食生活改善推進協議会の収入となる。また、各地区に対しては、一律65,000円を支払っている。
田中委員	ヘルスマイトの活動の指針となるようなものはあるのか。また、活動に対してのモニタリングはできているのか。
健康課長	国が作成したテキストがあり、各ヘルスマイトに購入していただいている。また、活動については年1回の総会でチェックしている。
日野委員	費用対効果や何がどう改善されたかの調査はできているか。また、新たな課題の発見もできるような体制づくりはできているか。
健康課担当	ヘルスマイトには、活動の報告書を出してもらっている。そこから、改善された点や新たな課題を読み取れるようにしたい。
	【2．敬老事業】
	(ヒアリングに参加した者) 福祉課 都築課長、奈良担当長
福祉課長	[概要説明]
石川委員	金婚記念の金杯の授与は喜ばれているか。ほかのものに変えることは検討しないのか。
福祉課担当	この金杯の授与は、社会福祉大会において贈呈式を行い、渡すのだが、その形式が喜ばれている。

福祉課長	形に残るものをと考えて金杯にしているが、それについて意見を聞いたことはない。
日野委員	敬老祝金を敬老会の会場で支給するということが、来られない方はどうしているのか。また、金婚のようなプライベートなことを公金で祝うことについて不平等感があるように感じるがどう考えているか。
福祉課長	来られない方には後日、市役所でお渡しすることができるし、体が不自由な方には振込みでも対応している。不平等感については、不平等というよりは、それぞれの事業によって対象者が違うという捉え方で考えている。
田中委員	10年後を睨んだ場合、この事業の持続可能性についてどう考えているか。また、敬老会の開催を婦人会に委託しているのはなぜか。
福祉課長	古くからの事業であることもあり、婦人会へ委託することが慣習となり、見直しができていない面はある。人口ピラミッド等により、将来的には対象者がかなり増大することは見込んでいる。
石川委員	参加者のデータや開催の必要性の検証はできているか。
健康課担当	婦人会等からの事業報告書により参加人数は把握しており、およそ対象者の半分程度が参加していると思われる。参加された方には喜んでいただいているものと考えている。
山崎委員	事業の目的をどう考えているか。また、過去から現在の状況の変化によって見直しされたものはあるか。
福祉課長	高齢者を敬愛し、長寿を祝うとともに、理解や関心を深めていくことを具現化するための事業と考えている。見直しは平成16年に敬老祝金の対象者について見直したのみである。
橋委員	様々な観点から事業の将来像は作っておくべきではないか。
福祉課長	高齢化が著しく進んでいる社会状況のなかで、今のような対象者の定め方良いのかは考えなければならない。なお、敬老祝金等については、他市の状況は調べている。
日野委員	本当に高齢者が喜ぶ敬老事業のあり方ということについて考えられないか。

福祉課長	<p>実施単位等の事業実施の方法については考えさせられるところがある。</p> <p style="text-align: center;">【 3 . コミュニティ推進事業】</p> <p>(ヒアリングに参加した者)</p> <p>笠井生活環境部長 生活課 山田副課長、杠担当長、石川主任</p>
生活環境部長	〔概要説明〕
田中委員	まちづくり補助金については終期設定をしているか。
生活環境部長	していない。まだ今は様子を見ている。
橋委員	補助を行う場合のベースは何か。また、コミュニティ間の格差の解消についてどう考えているか。
生活環境部長	コミュニティ運営補助金などは、200世帯規模から5000世帯規模まで、かなりコミュニティ間の格差がある中で、どのように補助していくかは最もネックになっているところであり、いろいろと試行錯誤しながら行っているのが現状である。
山崎委員	市として理想のコミュニティ像はあるか。
生活環境部長	地域の独自性を生かした、1つの自治体のようなかたちが理想と考えている。
石川委員	指定管理者制度を導入している、していないの差は何か。また、研修費の使い道と精算はどうなっているか。
生活課担当	コミュニティ側が引き受けてくれるかどうかである。今のところ、申請したが落ちたというケースはない。また、研修費は、コミュニティ講座の講師謝金等であり、余っても精算はしていない。
橋委員	丸亀市コミュニティまちづくり補助金交付要綱の第3条第1項第3号を除いているのはなぜか。
生活課担当	コミュニティの活動助成の方から補助が出るためである。

溝渕委員	まちづくり計画については、出来やすいコミュニティもあれば、そうでないところもあり、計画が出来ないコミュニティには補助金を出さないということになると、格差が生まれるように思うがどう考えているか。
生活環境部長	まちづくり計画は、地域の人が、地域を見て、地域をどのようにしていくかを考えてもらうことが1番の狙いである。すべてのコミュニティが計画をつくるのは難しいが、補助金という意味では、他にもそれぞれのコミュニティの事業や計画に合った補助を、できるだけ活用してもらうよう考えている。
	【 4 . 児童就学奨励事業】
	(ヒアリングに参加した者) 教育部総務課 中課長、林副課長、竹一主査
(教)総務課長	[概要説明]
石川委員	所得要件のみだが、資産調査はどうか。
(教)総務課長	調査権もなく、行っていない。
田中委員	申請したが却下されるケースはどれくらいあるか。
(教)総務課担当	毎年7, 8人くらいだが、学校を通しての申請なので、そこで要件を満たさずに落とされるケースは他にあると思われる。
石川委員	あえて申請していない人のデータはあるか。また、12%が適用されているというのは要件がかなり緩いのではないか。
(教)総務課長	申請していない人のデータは持っていない。ちなみに、他市の20年度のデータでは高松市 11.6%、坂出市 11.5%、善通寺市 11.3%でその他は7%程度である。
田中委員	あまりにも要件が緩いように感じるが、要件の見直しや検証については考えているか。
(教)総務課長	それぞれの要件については、各教育委員会の裁量なので、状況を把握し、検証や見直しを行っていかねばならないと思う。
橋委員	今後の見通しについてはどう考えているか。

(教)総務課長	増加することが予想される。
田中委員	給食費などについて、生活保護との二重給付の恐れはないか。
(教)総務課副課長	給食費については生活保護費でみている。
石川委員	学用品補助の支給方法はどのようにしているか。
(教)総務課担当	原則的に現物支給であるが、ランドセル、制服は新入生に対する現金支給に含まれている。
山崎委員	運用の段階でもっと要件に該当するか精査するなど、本当に必要な人に渡りやすいやり方ができないか。
(教)総務課副課長	運用で絞めていくのは困難である。
(教)総務課長	県内はほぼ同一要件であるので、県外にも目を向け、要綱の改正を検討したい。
石川委員	要件については厳しくするだけでなく、本当に必要な人には渡せるような要件の設定をお願いしたい。
日野委員	生保申請していないが、本当に困窮している家庭などもあると思うが、そのようなところは救えているのか。また、周知については十分か。
(教)総務課副課長	今の要件なら、申請があれば、困窮者についてはすべて網羅できていると考えている。
(教)総務課長	周知については、今年度から年1回、全生徒に対して行っている。
	【 5 . 丸亀教育推進事業】
	(ヒアリングに出席した者)
	学校教育課 三宅課長、塩田副課長、北村主任主導主事、和田主任主導主事 小田外国語活動指導講師
	総務課 中課長、林副課長、竹一主査
学校教育課長	[概要説明]

山崎委員	この事業に期待する成果としては、どのような結果になっているか。
学校教育課長	1つ1つの事業の成果の検証は難しいが、生徒に対するアンケートにおいて、学校の満足度や学力向上について右肩上がりの好ましい結果を得ている。
石川委員	平成18年頃のデータでは香川県は教育加配率が全国トップであったが、市がさらに加配するのはなぜか。また、丸亀教育の関係はどうか。
学校教育課長	他市町より手厚い教育を実践できている。あと、特別教育支援員については、最近は親や本人の公立学校に通いたいという意向が強く、それを尊重しているため加配が多くなっているという面はある。広義には丸亀の教育に関することすべてが丸亀教育なので、関係はある。
橋委員	平成21年度に英会話推進事業の派遣回数が激減している理由は何か。
学校教育課長	この年の学習指導要領の移行により、ALTを1名増員し、すべての小学校に定期的に指導に行く体制を作ったため、学校からの要望により派遣されていた回数が減ったものである。
日野委員	小学校の英語学習が必修化されるが、そのときの人員配置や予算配分についてどうするのか。
学校教育課担当	まだ協議できていない。
橋委員	人権教育フィールドワーク事業とはどのようなことか。また、実績はどうか。
学校教育課副課長	学校教育課が学校での人権・同和問題の講演会等の講師派遣等について橋渡しをしている。新型インフルエンザの影響があり昨年度の実績は0件であった。
田中委員	現役の公務員たる校長会等への委託については違和感がある。いつから、なぜ行っているのか。また、他にもこのような例はあるのか。
学校教育課長	詳細については不明であるが、弾力的かつ迅速な対応を可能とするためと考えている。
企画財政部長	これは学校教員と保育士の研修にかかる場合だけで、他にこのような例はない。研修については教員自身にいくらか裁量を持たせて、自由に参加してもらいたいという考えもあり、このようなやり方にしているが、特異的なものでもあり、再考したい。

溝渕委員	外国子女教育指導の人件費があがっていないのはなぜか。あと、学校づくり・仲間づくり推進事業については各学校一律の予算配分になるのか
学校教育課長	人件費ではなく報償費として支出している。
(教)総務課副課長	各学校からの計画により算定するため一律ではない。学校ごと、年度ごとによって異なる。
	【 6 . 猪熊弦一郎現代美術館運営事業】
	(ヒアリングに出席した者)
	文化課 宮浦課長、矢野副課長、宮岡担当長 ミモカ財団 真鍋美術館長、古野学芸員、畠中事務員
文化課長	〔概要説明〕
橋委員	今後どのように運営していくのか。
美術館館長	難しい現代美術を、どうやって平易に見せるかを考えている。今年度は異分野との交流やまちなかのぎわいづくりなどを試みている。
学芸員	これまでの展覧会により、市外からは一定の評価を得ているので、これからは市民に理解され、親しまれる美術館になるよう活動を展開している。
日野委員	本来、美術館の企画に関わる部分などは指定管理者制度になじまないのではと考えるが、直営と比べての利点は何か。
美術館館長	事業の中で一定の緊張関係を保つことができる。現在の4年の期間があれば企画面においても難しいことはない。経費の節減は図れている。
田中委員	公益財団法人化についてはどう考えているか。
美術館館長	平成23年4月1日の公益財団法人化に向けて進めている。
溝渕委員	公益財団法人化によるメリットは何か。
美術館館長	税制上の優遇措置は大きなメリットである。資格を得て、名称に公益が加わることにより得られるメリットもあると考えている。

石川委員	決算書を見ると、多くの余剰金があるが、美術館の運営にどうつなげていくのか。
美術館館長	整理して、後日回答します。
橘委員	今後、新たな催し物等の展開は考えているのか。
美術館館長	1年間特定の作家の作品展を行う。市民との連携を考えている。
山崎委員	来客者のうち市民の占める割合はどれくらいか。また、将来を睨んだ方針はあるか。
美術館館長	市民は15%程度で、あと県外が60%、県内市外が20%、外国が5%という割合である。現代美術を前面に出さず、市民に身近な美術館を目指す。また、中津万象園や近隣の美術館等とネットワークを結び、事業連携することも考えている。
	【7. 市民講座開催事業】
	(ヒアリングに参加した者) 生涯学習課 青木課長、逢坂副課長、高畠担当長、毛利主任
生涯学習課長	[概要説明]
石川委員	他の部署等との重複している講座の見直しについてどう考えているか。
生涯学習課長	すべてを把握していくことは難しく、幅広く講座があった方がベターであるとの考えから、今の事業を行っている。
山崎委員	コミュニティ講座との兼ね合いはどうか。また、参加者は同じではないか。
生涯学習課長	コミュニティ講座から入って、生涯学習の市民講座へ繋げるということで、それぞれの役割があると考えている。参加者については重なる部分もあると思うが、講座の手法等によって合う人と合わない人がいるので、すべてが同じとは考えていない。
田中委員	コミュニティや生涯学習の講座がホームページ等では一目で分かるような仕組みになっているのか。

生涯学習課長	なっていない。それぞれが別に情報提供している。
石川委員	利用者アンケートなどはとっているか。
生涯学習課長	とっていない。
	<p>【 8 . うちの港ミュージアム運営事業】 (ヒアリングに出席した者) 山田都市経済部長 商工観光課 高橋課長、谷淵副課長、今井担当長、香川担当長</p>
商工観光課長	〔概要説明〕
山崎委員	新施設については、丸亀城内への建設を考えているのか。
都市経済部長	丸亀城あるいは市民ひろばの近辺で検討している。
日野委員	城内に建設することは可能か。
都市経済部長	協議しだいではあるが、規模が今と変わらなければ、城内への建設は可能と 考えている。
山崎委員	今の施設はどうなるのか。
商工観光課長	取り壊しを予定している。
田中委員	ミモカとの連携は考えていないのか。
都市経済部長	ミモカの現代アートとはなじまないのでは。将来的にはミュージアムの見せ 方として連携できる部分が出てくるかもしれない。
溝淵委員	うちの工房竹の運営費はどうなっているのか。
商工観光課 副課長	施設については、単年契約で市観光協会に管理委託している。光熱水費は市 観光協会の負担で、管理委託する代わりに、うちの工房として無償で利用して もらっている。
日野委員	運営母体が異なるものを統合することに不都合はないか

都市経済部長	うちわ工房竹はうちわ協同組合連合会の賛助会員でもあり、事業を通しての交流もある。話し合いで解決できると考えている。
田中委員	丸亀城活性化プロジェクト会議における検討の期限はあるのか。
商工観光課長	丸亀城活性化プロジェクト会議は立ち上がったばかりであるし、特に検討の期限を定めていない。本年度末が指定管理の期限であるが、それまでにというわけではない。
山崎委員	竹うちわが伝統的工芸品になっていることとの関係はあるか。
都市経済部長	国の伝統的工芸品に指定されていることで後世に残していかなければならないという面はあるが、それに加えて、丸亀にとっては、地場産業であり、観光資源ともなっている。施設のあり方については検討が必要だが、施設自体はこれからも必要であると考えている。
【 9 . 四季のまつり開催事業】	
（ヒアリングに出席した者）	
山田都市経済部長	
商工観光課 高橋課長、谷淵副課長、今井担当長、香川担当長	
商工観光課長	〔 概要説明 〕
日野委員	合併前の地域性が尊重されているが、まつりを契機に合併後の丸亀の一体感を生むような動きはあるか。来客者数から見ると、逆に地域が分断され一体化されにくくなるように作用しているようにも推測されるがどうか。
都市経済部長	統合については、合併時に働きかけはしたが、うまくいかなかったものもある。合併後はまつりが増えたことにより、他地域からまつりに出向く機会もでき、交流は図れている。また、地域の特色を広めるという目的は達せられていると考えている。丸亀の一体感の醸成は、まつりの重要な役割であるので、考えていきたい。
田中委員	飯山の桃と丸亀のうちわの連携など、地域色を尊重するだけでなく、一体感の醸成を意識したものに切り換えていく必要があるように思うがどうか。
都市経済部長	まつりを実施する側の人間の交流はすでに始まっているが、内容や参加する人たちについても一体感を醸成できるようなものと考えていきたい。

山崎委員	合併後5年後、そろそろ地域のまつりからは脱皮する時期と思うがどうか。
商工観光課長	そうなるように、こちらからも働きかけていきたい。
石川委員	まつりごとにそれぞれの団体に補助をしているが、用品などで使いまわして きるものもあると思う。経費節減にも目を向けたほうが良いと思うがどうか。
都市経済部長	経費的な面も節減できるよう検討する。
【10. 商工業・農林融資事業】	
(ヒアリングに出席した者)	
山田都市経済部長 商工観光課 高橋課長、谷淵副課長、今井担当長、香川担当長 農林水産課 小林課長、長法担当長、川池主査	
商工観光課長	〔概要説明〕
田中委員	返済状況はどうか。市が何らかの損失を被ることはないのか。
商工観光課 担当	新風融資以外は焦げ付いても市の損失は一切ない。新風融資は実績がない。
石川委員	実績がないなら制度を無くすという考えはないか。
商工観光課 担当	相談や電話問い合わせはある。中小企業対策として政策的に制度は残してお きたいと考えている。
田中委員	預託金額の減額を検討とあるが、具体的にはどう考えているか。
商工観光課 担当	実行件数を反映したものを検討したい。
山崎委員	将来的なことを考えると、市の融資制度は確保しておくべきだと思う。PR 方法については考える必要があると思うがどうか。
商工観光課 担当	効果的なパンフレットの配布を考えたい。
	<ヒアリング終了>

委員長	これで 10 事業のヒアリングは終わりました。お疲れ様でした。これから、各自が 10 事業の評価に取り掛かるようになりますが、特に事務局に聞いておきたいこと等はありませんか。また、事務局からは何かありますか。
企画課副課長	次回は 8 月 17 日の午後 2 時からの開催をお願いします。
委員長	特にないようですので、これで本日の行政評価委員会を終わります。皆さん長時間に渡り、ありがとうございました。